

〔鹿兒島藩名勝志〕千歳川 和漢名數此云千歳川享保中より川内川に作る圖書編作千臺

高城郡と薩摩郡との界を経て新田廟の前を流るゝものをいふ是薩摩國第一大川なり

〔蝦夷草紙〕中大河の事

一曠き地には大河あり、狭き地には大河ある事なし、日本の西海道に大河なく、東山道に大河多し、爰を以て推量すべきなり、蝦夷地は日本地に勝れる廣大なる土地なれば、大河も多し、西蝦夷地にイシカリといふ河有て、蝦夷地第一の大河なり、又東蝦夷地にはトカチといふ河有て、蝦夷地第二の大河なり、先イシカリ河は夷舟に乗て源の方に溯る事凡九日にして河上の河邊に蝦夷土人住居の村々あり、此イシカリ河は鮭の鹽引を出す所にて、秋にいたれば毎年數十艘の日本商船渡海して、此河の内に船が、りして滞溜するに、風波の愁もなし、縱數百艘の大船輻湊するとも狹もせず、此河時として標根其ま、具へたる大木流れ出る事數を玄らす、人皆是を観て、河上の地中に大雨降たるべしといえり、是源の河岸あふれて出るものかといへり、地中曠ければ、此流樹の出所を知る人なし、河尻の海近き處は潮汐の干満ありて、河幅凡五六百間あり、〔天鹽日誌凡例〕一テシホは西部從箱館百二十八里沿海十四里十七丁に在て、夷地第二の大川、其源は石狩上川ユウベツショコツモソノ領也に境し、百五十里を通す、山中土人多し、二百七十余人處々に散落し、其三分が一連上屋元并に二島テシウレ、ヤギシリに住す、當時戸籍を別にすべけれ共、元來蓬前土人も此川筋より移りしもの也、

一本名テシウシなるを、何時よりかテシホと詰る也、テシは梁の事、ウシは有との意なり、此川底は平磐の地多く、其岩筋通りて、梁柵を結し如く故に號しと、又土人の言に、梁と言るもの、は大古此川筋に石の立并べる處有を、神達が見て始めし物とも言傳したり、

〔十勝日誌凡例〕一トカチ、本名トカブなり、此川口二に分れ、乳房の并び無盡の乳汁を出に倣て號